大日本蠶絲會報

第拾六號

明治廿六年十月

〔明治廿五年四月七日內務省許可〕

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第拾六號目次

●論　說

◎絹絲中に含有する水分を論じて繭生絲の賣買に及ぶ　大日本蠶絲會贊成會員　農學士　本多岩次郎

◎養蠶術（續第十號）　大日本蠶絲會贊成會員　松永伍作

●寄　書

◎蠶絲取引所建設の必要　大日本蠶絲會贊成會員　横濱　橋本重兵衛

●統　計

◎二十五年中全國繭灰生絲類の産額◎八月中生絲屑物輸出數量元價及産額統計◎八月中絹布類輸出量數及元價統計◎九月中横濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

●問　答

◎蠶種の伴賣問并に答◎製種方に付き賣問并に答◎蠶糞の用法に關する賣問并に答◎餌桑、鳥獸糞、鰊糞の伴賣問并に答◎ボルレー氏の演說中賣疑并に答

●外　報

◎米國に於ける生絲需給の調査◎米國パタソン市に於ける絹業實況觀察

●雜　報

◎信濃拳蠶種製造の減少◎世界博覽會出品生絲の英文目錄◎倫敦に生絲を輸送す◎生絲取引所設置の議◎人造絹絲と人造絹布◎生絲買占運の失敗◎信州の製絲家前途を憂ふ◎松山に製糸工場起らんとす◎無證印蠶種の賣買◎富岡製絲の實況◎蠶種改良組合の解散◎蠶繭絲品評會の概況◎墺人ガ氏の日本蠶業に關する意見◎九州の蠶業は將來益盛なべし◎濠洲の養蠶事業◎出穀と鋼條◎寄贈書◎大日本蠶絲會員の加入◎故下村善太郎氏の追賞

◎大日本蠶絲會職員

◎技藝委員

今泉直次郎　農學士
伊藤小左衛門　農學士
星野長太郎　農學士
堀正太郎　農學士
小野孫三郎　農學士
渋川敬直　農學士
伊知地鐵之助　農學士
八田逸也　農學士
本多岩次郎　農學士
押川則吉　農學士
大林雄也　農學士
横井時敬　農學士
菅野平右衛門　農學士
高木正年　農學士
中島武平　農學士
藤三郎　農學士
高橋信貞　農學士
佐々木忠二郎　農學士
田中芳男　農學士
松永伍作　農學士
菊池大麓　理學士
菊池武夫　理學士
菊池正士　理學士
長岡半太郎　理學士
田中館愛橘　理學士
田原藤太郎　理學士
田村義也　理學士
高橋是清　理學士
横井時雄　理學士
吉田東伍　理學士
渡辺廉吉　理學士
大久保利謙　理學士
大村清一　理學士
小野塚喜平次　理學士
佐々木信綱　理學士
柿沼谷蔵　理學士
木村駿吉　理學士
久米邦武　理學士
久保田譲　理學士
久保田金僊　理學士
久保田俊彦　理學士
久保田文次郎　理學士
久保田譲

際試驗を行ひて之を確めたるは西暦千八百三十一年(我天保二年)にして佛國里昂商業會議所の技師タラボー氏を以て嚆矢と爲すべきか氏は當時左の報告を爲せり

一、生絲は常に著しき水分を含有し加之或る場合に於ては烈しく之を吸收し又速に之を放散す

二、生絲は人力を藉るにあらざれば水分を放散せしむると能はず而して其十分乾燥せるものにあり て暫く普通の空氣中に放置するときは忽ち舊に復す

三、平常商家に於て取り扱ふ生絲は概して十分の一以上の水分を含有す

是に由て之を觀るも絹絲は其水分を吸收すること速に之を放散すること亦速なるを知るべし而して右第三項中通常生絲の含有せる水分を十分の一と爲すに至りては當業者間種々の異說を爲すものあり是を以て當時政府は之を一般蠶絲業者に諮詢せしに百分の十は或は少量に過ぐるの恐あれば宜しく百分の十二に改むべしと論ずるものあり否適度なりと駁するものありたりしが終に析衷して百分の十一と爲すに至れり是即ち現行の水分率一割一歩たるの起源にして千八百四十一年(我天保十二年)四月二十三日勅令を以て之を制定するに至れり

世人の唱道するが如く本邦は雨量多く空氣の濕度從て高ければ絹絲中に含有する水分も亦自ら之を他邦のものに比して多量なりとす啻に多量なるのみならず濕度に變異を生ずると屢々なれば含有水分の分量常に增減して止まず然るに是等增減に就き未確實なる試驗の成蹟あらざりしが友人農學士三成文一郎君は余が爲めに昨年左の試驗を行ひ其關係を明にせられたり即ち氏は赤熟、青熟の二種各五繭小石丸、又昔、鬼縮、支那の四種各三繭をとり之を攝氏百零三度乃至百零五度の溫に熱して其乾燥量を檢し更に之を空氣中に放置して其水分を吸收するに任じ晴天及雨天の時に際し再び其量を測定して左の成蹟を得たり

種別＼目標	乾燥量	晴天の際測定せし量	雨天の際測定せし量
赤熟	一グラム、一五八五	一グラム、二六七五	一グラム、三五〇〇
青熟	〇、九一二〇	一、〇〇九〇	一、〇六三〇
小石丸	〇、五二六九	〇、五八四四	〇、六一〇四
又昔	〇、五三一五	〇、五九二〇	〇、六一三〇
鬼縮	〇、六六九〇	〇、七三二六	〇、七七六五
支那種	〇、六八六〇	〇、七六三〇	〇、七九七〇

右は實際測定せし數量なれば今左に乾燥量百分に對する水分量を算出して其比較を判明ならしめんとす

種別	目標	乾燥量百分中含有水分量 晴天の時	乾燥量百分中含有水分量 雨天の時
赤熟		九、四一	一六、五三
青熟		一〇、六四	一六、五五
小石丸		一〇、九五	一五、八五
又昔		一一、三八	一五、三三
鬼縮		九、五一	一六、七〇
支那種		一一、二二	一七、一八
右六種平均		一〇、五二	一六、〇九

表中晴天の時に於ける含有水分は割合に其量少きが如しと雖も其之を測定するのヨは恰も北風凜烈空氣は非常に乾燥せるに由れり而して右雨天の時にありては空氣未水分飽和の度に達せざりしが空氣若し飽和の度に達するときは絹絲は猶ほ一層多量の水分を含有するに至るべし余は昨廿五年に於て水分を以て飽和せられたる空氣中に赤熟、青熟、小石丸及又昔の絹絲を放置して其最大吸收力を測定せしに左の成蹟を得たり

種別	目標	乾燥量	水分飽和の時 乾燥量百分中含有水分の量
赤熟		一一、四九〇（グラム）	一一、四〇二四（グラム）	二二、〇五
青熟		一、六四〇五	二、〇〇四九	二二、二一
小石丸		一、〇五二五	一、二八三四	二一、九三
又昔		一、〇一九三	一、二四八九	二二、五三
右四種平均				二二、一八

是に由て之を觀るときは絹絲若し連日の降雨に際會し空氣中の温氣多量にして終に飽和の度に達したるときは二割二分以上の水分を含有し恰も尋常含有せる水分量の二倍に相當せり然れども降雨の際濕氣若し飽和點に達せざるときは一割六分晴天の日尙ほ一割以上の水分を含有すべし

要するに絹絲は水分を吸收する力甚だ强く之を放散すると亦速なれば晴雨乾濕によりて常に水分含有量に著しき差異を生ずべければ縱令同一のものと雖も朝に十貫匁の繭は夕に至り尙ほ同重なりと云ふ能はざるなり今日百貫匁の生絲は明日同量を秤すと斷言する能はざるなり

右は即ち繭、生絲賣買上最も注意せざる可らざるの一現象たり然るに養蠶家は一般已の成繭を賣却するは殺蛹前にして價格を定むるは重量に從ふの習慣なり而して容量を用ふるもの甚だ稀なりとす故に同量の繭と雖も空氣乾燥せるの場合にありては重量輕く價貴からずと雖も濕潤せる氣候に於ては意外の高値を呈するとあり是を以て同一種のものにありて時の異なるに從ひ甲に重くして乙に輕く丙に貴

ふして丁に廉なるとあり且つ其繭は殺蛹前なるが故に縱令絹絲は其重を同ふすと爲すも其内に蛰せる蛹は漸次其重量を減ぜり余嘗て此減量を調査せしとあり即ち其成績に據るに上簇後五日にして蠶體化蛹すれとも色白く外皮薄弱なり然れとも日を迫て褐色に變じ外皮强固となり重量又漸減し越て羽化前に至りては化蛹の當初に比すれば一割二分七厘の減量を生ずるに至れり夫れ斯の如くなれば繭は收繭の當初に重く羽化の期に近くに從ひ輕きは一般の定則なりと雖も亦空氣の乾濕によりては輕重一定ならざると前既に述ぶるが如し爲めに賣買上圓滑を缺くの虞あり故に繭の賣買に當りては宜しく重量を改めて容量を用ふべきなり若夫れ容量を用ひて賣買を爲すの時に當りては繭は之を殺蛹すると否とに拘はらず空氣の乾濕に關せず將た上簇後日子を經過すると否とを論ぜず概ね同一量ありとす是を以て繭の賣買は全國を通じて容量に改めざるべからざるなり

繭夫れ然り豈生絲に於て之に異なるの理あらんや然るに生絲にありては之を賣買するに當りて容量を用ふると能はず單に重量に依るの止むを得ざるものあり余嘗て之を聞く生絲の輸出に際し本邦に於て定量したるものは空氣乾燥せる米國に入りては必ず其量を減じ爲めに賣買上屢々紛紜を來したるとありと是最も信ずべきのとなりとす啻に全量のみならず其細大の標準たる「デニール」の如きも亦幾分の差あるを免れざるなり是を以て生絲輸出に際しては殊に一定量を定めて輸出上圓滑ならんとを欲するなり然らば之を爲す如何余をして之を言はしめば唯生絲檢査所設置の一點あるのみ生絲檢査所に就きては余亦說なきにあらずと雖も夫は他日再び論する所あらん然れとも今日にして生絲賣買上量目に於て紛紜なく取引上圓滑ならしめんと欲せば宜しく該檢査所を創設せざるべからざるなり

大日本蠶絲會
贊成會員　松永伍作

◎養蠶術（接第十號）

白繭を造る中にも樣々の種類あり赤熟、青熟は蠶の色澤即ち眠起の際の色彩に因て分別せしものなり即ち赤色を呈するを赤熟と云ひ黃色を呈するを青熟と云ふなり此赤熟、青熟と云ふ中に又大巢中巢小巢の區別あり即ち一升に百八十粒乃至二百二十粒の容量なるを大巢と稱し二百二十粒以上二百六十粒位のものを中巢と云ひ其次を小巢と云ふ又大巢中巢小巢の中に其形狀長きものあり短きものあり又は縮皺の細密粗大等あり尙精密に細別すれば縊れの深淺あり圓突あり隨て種々の名稱を附するに至るされども現今は汎く名稱の知れたるは赤熟、青熟にして此他又昔小石丸鬼縮等なり其他幾百の名稱に至りては普通の名稱となすに足らず

小石丸又昔は素と青熟或は赤熟より來りしものなり故を以て或人の又昔或は小石丸は赤く熟し或人のは青く熟すと云ふ如き差異あるなり蓋し小石丸又昔は赤熟、青熟の中巢或は小巢より來りしものなり近來行はるゝ小石丸は小にして縊れ深く又昔は長形にして縊れ淺し然れども小石丸にも種々ありて一樣ならず當場のものは餘り縊れ深からず製絲となすには短形のものより却て長形のもの眞絲を出するのなり從來縮皺は細密なるを以て繭質善良なりとのみ是認し來りしが段々精密の試驗を遂ぐるに全く

然らざるのみならず却て之か反對に出るを知るに至れり元來鬼縮種は縮緬粗大なるは人の能く知る所なるが此種の纖維は至て細く常に工女等の困難とする所なりと知られたるか是迄の考へにては特に此種に限り縮緬粗大にして纖維細しと思ひ居りしが全く然らずして總躰に縮緬の粗大なるは纖維細小絲質美麗なるを知るに至れり縮緬の粗細は亦類節に關す元來蠶の絲を掛くるは上圖甲の如く粗大に掛るものと乙の如く細密に掛くるものとあり此細密に掛くるものに限り類節從て多きものなり

明治廿二年纖維に就き詳細の試驗をなせしとあり次表の結果を得たり

	第一百圓	第二百圓	第三百圓	第四百圓	第五百圓	第六百圓	第七百圓	第八百圓	合計	平均四百圓に付テニール
小石丸	、七五	、八一	、七五	、五六	、五〇	、二五	〇	〇	三、六二	二、四一
支那種	、八一	、八八	、六九	、四四	〇	〇	〇	〇	二、八二	二、八二
鬼縮	、六三	、七五	、七五	、六九	、五六	、五〇	、四四	〇	四、三二	二、四七
青熟	、五〇	、八一	、八八	、八一	、六九	、五〇	、四四	〇	四、六三	二、六四
赤熟	、六三	、八一	、九四	、八八	、八一	、六九	、五〇	、三八	五、六四	二、八二
朝鮮	、六九	、八八	、九四	、八八	、七五	、五〇	、二五	〇	四、八九	二、七九
金黄	、八一	、八八	、八一	、七五	、六九	、五六	、五〇	、三八	五、三八	二、六九
夏蠶	、七五	、六九	、五九	、三一	〇	〇	〇	〇	二、三四	二、三四

右表の中小石丸は最初信州下伊奈郡より(明治十八年)取寄せ爾來當場にて飼育し來れる者なり支那種は明治二十一年清國より取寄せたり此種は繭の縮み少くして形狀楕圓なり繭綿多けれども解舒は實に容易なり故を以て製絲費用を減じ得べし靜岡に伊藤精一なるものあり此人の實驗に據れば百斤に付製絲費用十四五圓は減じ得べしと云へり加之飼育容易に成育迅速日本在來種に比し四五日方早き樣なり故に又隨て桑を食すること寡少なり其容量一升に付三百二三十粒位なり以前明治八九年頃にも一度支那種を取寄せたることありしが此時の蠶兒は餘程大にして一頭の量一匁七八分乃至二匁位迄に成長せり鬼縮は群馬縣北甘樂郡富岡町の佐藤國太郎氏より取寄せ青熟赤熟は福島縣伊達郡掛田村菅野平右衛門氏より取寄せたり朝鮮は明治十九年全國より來る此種を年々飼育せしに遂に赤熟と同樣のものに變ぜり思ふに本國より朝鮮に渡りし事ありしものなるやも知るべからず此後朝鮮より再度取寄せたるに此度は三眠三起して繭を造り以前とは大に異れり此三眠三起して成繭する朝鮮種は絲量少く殆ど二分の一乃至三分の一位なり金黄種は明治十八年佛蘭西より來る夏蠶は第一期のものなり

蠶卵貯藏の注意

蠶種貯藏の事は練木君よりも講義あらんかなれども順序なれば例に依て茲に其要を摘て陳べんとす蠶卵發生の際に於て如何なる注意を要するか即ち其初期俗に生種と云ふて未卵固有の色澤を呈せざる無色の時なり此初期の卵は未卵殼も自ら薄弱又圓容も幾分か稀薄なれば其時代に於ては甚敷動搖すると

を嚴禁す若し誤て動かす等の事あれば其卵をして幾分の損害を被ふらしむるの理なり其害を被ふるの一例を擧ぐれば即ち去る二十三年度夏蠶の蠶卵を以て此事に付き試驗せし者あり蓋し其夏蠶は第一期の成繭を終り其繭より蠶種を製し二期發生すべき種卵に付き試驗せしなり其試驗は蠶卵發生して十五六時間經過したるものを動搖すると五分間斯くして其卵を發生せしむる見込にて其後の保護方に於ては普通の取扱をなせり然るに其蠶卵は悉く卵内に於て死し一頭の發蟻を見ざりし其試驗せし人の目的は是迄夏蠶の如きは蛾を除くや否や直に持出して販賣するを常とす此の如き事は卵の爲に宜しからざるは既に從來唱へ來れるとなるが扨其害は那邊迄悪しきかに就ては未今日迄確たる試驗をなせしものあるを聞かずと由て以て此試驗をなすに至れるものなり次に一晝夜半或は二晝夜近く經過して後動搖せしものは能く發生するに至りしが其蠶の發育中の景況は大に劣等なりしと云へり然らば其動搖する事は兎に角悪きとには相違なきも只初期のものに比し害の僅少なりしに過ぎざるのみ以上動搖の事に就ては他動物の卵に就ても其例あり彼鶏卵の如き其動搖するに於ては決して孕化するとなしと云へり此に由て考ふるに卵の產下後其の變色迄即ち四五日間は可成的靜置して動かさゞる樣になすと緊要なり

春蠶種にて其產卵後變色する迄は其時の温度に因て遲速あり併ながら大抵順當の氣候なれば即ち七十八度より八十二三度（但春蠶種製造期は例年六月下旬若くは七月上旬なりとす）にして三日間經過せ

ば稍褐色に變じ四日若くは五日を經て蠶卵固有の色澤に變ず八十度以上八十五六度なれば三日間を經れば既に固有の色澤を呈す之に反し七十度前後なれば五六日を經過せざれば固有の色澤に變ずるとなし又其蠶卵變色の遲速は蠶蛾の交尾時間に因て大に差異あり蠶蛾交尾時間は普通六時間と云ふとは古來よりの仕來法にして是亦略適當なる時間なりと考ふ今實際上研究するに蠶蛾は一旦交尾して少時も離隔するとなきに於ては三時間交尾すれば既に雄より精虫を受くるとを得る者の如し併ながら其一旦交尾せしものは決して離るゝとなしと謂ふべからず否實際上實に離れ易きものなるを以て交尾して離れ亦更に交尾すると云ふ如き有樣にては即ち六時間を經過する位にて始めて三時間交尾するとなるべしとの想像的より斯くは定めしものなり（多數の蠶種を製造するに至ては一々其交尾しつゝあるや否を點檢する能はず）併ながら其交尾をなさしむる時間と雖も固より一定すると能はず時の温度により多少斟酌を要するものなり嘗て交尾の長短に就て試驗せしとあり即ち七種の試驗にして其雌雄を交尾せしむると五分のもの、十分のもの、三十分のもの、一時間のもの、三時間のもの、六時間のもの、自然離隔する迄置しものは是なり其自然に任ぜしものは一晝夜以上の交尾を要せり此等七種のものを悉く產卵せしめしに尤短きもの即ち五分十分のものに至ては通例なれば一蛾に就て五百乃至六百粒の產卵あるべきものなるに僅々二三百粒に過ぎず加之其卵は十日を經て始めて變色したり此等は實に其產卵一二割に過ぎざるものと謂ふべし其他產下せざる卵は精虫を受けざる所謂「シヒナ」と稱する卵なり

或は粟種と云ふ其三十分交尾したるものは其粟種と稱するもの二三割にして其他は完全なりし一時間交尾したるものは大抵充實したる卵を產下し粟種を見ず而して一時間若くは三十分間位交尾したる蛾の產下せし卵は變色に大に時間を要す三時間若くは六時間交尾せしめたるものとは其變色時間に差異あると一晝夜乃至一晝夜半遲し其三時間及六時間交尾せしめたるものは孰れも大差なし而して其自然に放任せしものは多少其變色早き如き感ありたり蓋し是は多少神經の感に由て然りしやも知るべからず故に一回の試驗にては斷定し難し又以上列擧せし所の卵を悉く飼育して其結果を見其成蹟に就て考ふるに其少時間即ち十分、三十分位のものは概して發育不齊經過不良なりし一時間、三時間、六時間のものは差したる優劣を見ざりし其自然に放任せしものは此三種に比すれば發育の有樣成繭上に就ても幾分か劣等なりし余の考へにては餘り長時間交尾なさしむるときは其母蛾衰弱する故に隨て其腹中の卵も衰弱するものならんか併ながら之を難ずるときは卵は其交尾前已に成熟し其產下に先て精虫を受くるに止るものなれば假令長く交尾し母躰衰弱するとも其の卵迄衰弱すると云ふの理は決してあることなしと云ふに至らん是蓋し識者を俟て可否を問ふべき所兎に角實際上必ず劣等なるは疑はざる所なり

●寄書

◎蠶絲取引所建設の必要

横濱　大日本蠶絲會贊成會員　橋本重兵衛

編者曰く本編は數月以前に寄送されたるものなれども原稿の集へるよりして今日まで掲載するを得ざりしものなれば讀者諸君は其心して見給んことを請ふ

當業者の時に記憶して今尙其盛般を追懷せしむるものは昨年下期よりの絲況是なり而して將來其趨勢を續けて本年新絲の期に至りたるに翻然其向進を回變して當業者自ら絲價の暴落を致したるは亦吾れ人共に腕を扼して以て當業者に忍耐の力なく先見の識なきを痛憤して已まざるものなり、近時又一報あり曰く支那及伊太利は五月上旬より中旬に當て歐米需用者との間に七、八、九、十月を以て蠶絲三百六十萬斤計の先賣約束を締了せり而して時期の漸く絹織物の殲んたらんとする事を推認したる所より需用供給兩者の間に此先賣取引を促致したる旨を傳へり固りて余は按ずるに其先賣せし當時蠶絲相場の通況は現今我市場にて賣崩したる所の絲價よりは少くも貳百圓以上の價格を保ちたり故に此際先賣直段の如きも亦之に準憑したるものなれば今日よりは少くも百圓以上百五拾圓程の高直の格合を以て定約したるは強ち謬りたる推想にあらざるべし之に反し我市場は夫より未三旬ならずして六月十四日に於て突然六百五拾圓に墜落して信州器械絲を放出したるの苦況に渝みたり則ち之を換言せば支、伊の市場に在ては今日我市場の賣崩直段より少くも百斤に付き百圓の高直を以て先賣したりとせば三百

五拾萬斤に對し三百五拾萬圓又或は百五拾萬圓高直を以てせば五百貳拾五萬圓の利益を肆にして揚々得色あるものなるにも拘はらず獨り我市場は自ら求めて苦況に淪み居るとは彼我得失其趣を殊にする亦太甚しからずや是に至り余は當業者の頑陋淺劣を憫笑せざらんと欲するも得べからざるなり何を以て爾か云ふとせんに爰に好話あり居外外商中我市場に望むの一言に曰く有力にして且つ確實の賣込者にして能く先賣約束の商業をなさんとするの勇略あらば從來本邦市場の特性とも謂ふべき絲價の朝變暮動の管ならざるを制し得るは容易の事なりと、蓋し暗に我が當業者の怯懦にして商略に乏しきを嘲刺したるものにして又能く其肯綮を穿てるものと謂ふべし之を耳にするもの豈響起の慨なくして可ならんや、去過は之を追ふも詮なしと雖も若し斯る場合に際し定期市場ありなば空しく手を拱いて伊、支市場にのみ其利を壟斷せしめざるのみならず今日の賣崩を招くが如き失敗は取らざりしと余は飽迄斷信するものなり、夫れ斯の如く一夕取引所の有無存否は蠶絲貿易市場に至大の利害を繫懸するものたるとを覺らば該場の速かに起設せられて市場の波瀾を沈め常に靜着の進行を取らんとを思はざる可らず然るに幾多世の迷想者は定期取引所を目して唯投機處變の事業と稱し取引所が物價の激變を掣肘して能く其均衡平定を保たしむるの機關たるを知らざるものあり蓋し米商會所或は株式取引所等の弊患のみを聞きて其功績を見ざるの偏僻よりして此妄言を放つものなれど去る明治二十三年に於て米國が銀購買按を發表したるが爲め全世界に銀貨激昂の急變を生じたる際に機敏なる英人が忽ち銀貨取引所を設け之を利用して遂に巧みに其慌亂を鎭めたるが如き亦其一端を窺ふに足るべし

當業者が自家の頭上に被ぶる所の利害を思はゝ何んぞ進んで取引所成立の速かならしむるとに戮力せざる、豈此を他人の事業として放擲し措くべきものならんや

●統計

◎二十五年中全國繭及生絲類の產額

農商務省記錄課に於て調査せし昨二十五年中全國に於ける繭及生絲類統計東京商業下商、北、四、三多摩郡は其際管轄等の事、ありし故報告未だ到着せずは即ち左の如し

昨二十五年の繭其他四種の收穫高を前二年に比すれば左の如し

	繭	生絲	屑絲	眞綿	蠶卵紙
明治二十三年	一一七、二二七二石	八六、八〇六八貫	三二、〇〇九、九貫	六、二五三五貫	二二九、五〇〇四枚
同　二十四年	一五八、〇二四〇	一一、六四二二	四二、六四〇九	五、四八〇三	二七九、二五四二
同　二十五年	一四四、五〇九七	一〇七、二〇〇二	五一、二四三五	八、二五九三	二八二、三〇四一

右の表中二十五年を二十四年に比すれば繭、生絲は減じ屑絲、眞綿蠶卵紙は增せり之を要するに二十五年は前年に比し不作なるが如きも二十四年は近年稀なる豐作なりし故二十五年の收穫は强ち不作退歩とは云ひ難し尙ほ各地に於ける詳細は左表の如し

	繭	生絲	屑絲	眞綿	蠶卵紙
府縣					
東京	一九四二石	一一三六貫	六二九貫	一貫	二三六枚

京都	二、六五二七	二、二〇一二	八八六五	二九七	三、四八九三
大阪	二五三〇	一七五四	三五四	二六	一三五一
神奈川	三、四七一二	一、八三一六	七二一七	三〇二	五一八二
兵庫	三、七九七五	二、二七二一	七六三五	一三五二	二、二六〇一
長崎	二一五八	一七六一	四一七	一八一	二三三一
新潟	三、六九一一	二、二八九六	九三〇四	二二四七	二、一六八三
埼玉	九、一八九〇	四、八九七一	二、一四九四	一二二四	一六、一五二四
群馬	一五、八五五二	一四、五四七二	一九、七六四六	三九八五	二〇、八〇〇八
千葉	一、四一六七	六一四五	二七七六	一三五	五一二四
茨城	二、九九一一	一、三六〇七	三六七一	六〇三	二、〇二八〇
栃木	一、六六四三	一、〇七七四	四八五一	六七一	六、四八六七
奈良	三五二五	二一〇三	一八八	九二	二七九一
三重	一、二二四二	八九九一	二七五三	三三〇	一、〇六七七
愛知	四、一二五二	二、七九九三	七三一五	七三四	二、七九三八
静岡	一、五四一〇	八五四六	五五三二	三六一	八〇五五
山梨	六、五二四一	六、三二一〇	二、〇八五二	一五一二	九、七九五七
滋賀	五、九四三三	五、五六九四	一、〇七四二	六二九八	二六、七三四七

岐阜	八、二八三一	五、五八八九	二、〇六三三	四二六六	二、二八八一
長野	三一、六五九七	二四、八一三四	八、四〇五〇	四六四七	一〇九、九八二一
宮城	三、三〇七九	二、三六四三	一、一一五〇	一四九一	二、〇一四四
福島	一二、四三〇二	八、〇三五九	二、二一一五〇	六五九七	四四、七四六二
巖手	二、二五六二	一、五〇八〇	四六六四	二八八一	九一一〇
青森	八七一	五四四	一〇六	一二一八	一二一八
山形	五、〇六七〇	四、〇一九三	一、三一七八	四二八九	六、二二七〇
秋田	九八三七	七四〇五	二三五〇	一六八〇	一、〇八四九
福井	二、六一二三	一、六三一三	七四六四	六〇九	一、九二六六
石川	二、八二一六	一、一五九七	三五二〇	二、八五〇〇	一、六四九八
富山	七八一二	一、一九四〇	五三五三	二三九八	四、六九四七
鳥取	一、三七六六	一、一六二四	六三三八	三六一	一、〇一七一
島根	九二九七	七一三二	二四四一	三七三	一、三七四一
岡山	七七一〇	一、〇八二四	三三九八	三一七	八四〇九
廣島	四六五二	四七九一	五三四	一一六	六、六四三
山口	三三五五	二七三五	一〇八九	二八〇	三一三四
和歌山	三三三三	二六七六	四〇九	一二	二一六七

德島	三一一三	二九〇七	一二〇一	五一四
香川	一三四三	五一七	三二	八
愛媛	五五八八	四八六一	一五七八	一七七
高知	三九五一	四一四三	一二三二	一二七
福岡	七四三二	七四五六	一八五二	一四二
大分	一、一四二六	六四九八	二四七七	六六八
佐賀	二一一一	二一九八	四二二	六〇三
熊本	六一〇三	四七四五	八三〇	二二一
宮崎	三一六四	三六一七	六四七	一三三
鹿兒島	三四四〇	二三二〇	七九九	四四二
北海道	一三九二	七五九	二九七	二三三
計	一四四、五〇九七	一〇七、二〇〇二	五一、二四三五	八、二五九三

				八七三八
				二三四
				三九五六
				五三五五
				七七九八
				一、〇〇二五
				二三〇〇
				九四四二
				三一〇一
				三九三二
				四五八四
				二八二、三〇四一

◎八月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計

種目	數量	元價	收稅
生絲	三一六、一九八斤	二、四四五、一二二、三〇〇円	七六、一四二、五五八円
屑絲	三〇、〇八六	三五、八八九、九五〇	七二五、五五四
屑絲	一六、八四二	一六、九〇〇、六五〇	一二一、五八六

繭	二四六	四五〇、〇〇〇	六、四九二
空繭	二六二	三四一、二〇〇	五、九一七
眞綿	五、七五六	一一、五〇二、六〇〇	三七〇、二〇八
屑眞綿	二一、一五〇	七、〇八七、八〇〇	三五四、三九〇
蠶卵紙	六枚	二一、〇〇〇	一四五
計	三九〇、五五〇斤 六枚	二、五一七、三〇六、五〇〇	七七、七二九、八五〇

◎八月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	元價
羽二重	七、八八二反	一三四、二二一、四八〇円
他の諸絹類	二、〇二四	一七、九二八、五六〇
絹綿布類	一八九	一、四四八、四二〇
絹布手巾	一七七、七一九打	三六八、九四七、七七〇
絹製品類	—反	七三、四四七、〇九〇
計	一〇、一〇四反 一七七、七一九打	五九五、九九三、三二〇

◎九月中橫濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

月	日	手合高	手合最高價格 製絲場名	價格	外國爲替相場 倫敦參着	里昂參着	紐育參着
一	日四百五十六個	三州細谷器械(細)	九百十弗	二志五片四分ノ一	三法十參	五十九弗七十五仙
二	日四百〇八個	信州長信社器械	七百五十弗	二志五片八分ノ三	三法九參	五十九弗二十五仙
三	日自九十個	信州間所社器械(細)	八百十弗	—	—	—
四	日八百〇八個	三州細谷器械(細)	九百十弗	二志五片	三法六參	五十九弗
五	日三百十個	美濃加茂器械(細)	八百十五弗	全	全	全
六	日四百〇五個	信州信英社器械(細)	八百二十弗	二志四片八分ノ七	三法五參	五十八弗五十仙
七	日七百八十三個半	美濃信勝社器械(細)	八百七十五弗	二志五片	三法六參	五十八弗七十五仙
八	日七百十六個	信州對岳館器械(細)	八百八十弗	全	三法七參	全
九	日三百五十二個	美濃信勝社器械(細)	八百七十五弗	二志五片八分ノ一	三法八參	五十九弗
十	日九十五個	甲州矢島組器械(雜込)(細)	八百弗	—	—	—
十一	日二百七十六個半	美濃生糸製絲組器械(細)	八百五十弗	二志五片四分ノ一	三法八參	五十九弗二十五仙
十二	日九十三個	備後壬辰社器械(細)	八百十弗	二志五片八分ノ三	三法十參	五十九弗七十五仙
十三	日二百八十五個半	信州最信社器械(細)	八百五十五弗	全	全	全
十四	日百六十四個	信州信英社器械(細)	八百五弗	二志五片八分ノ一	三法八參	五十九弗二十五仙
十五	日三百四十四個	甲州甲南社器械(細)	八百三十弗	全	全	全
十六	日二百八十五個	信州片倉器械(細)	八百二十弗	全	全	全
十七	日休			—	—	—
十八	日二百二十一個	羽前多勢組器械(細)	八百五十五弗	二志五片四分ノ一	三法九參	五十九弗二十五仙
十九	日三百十二個半	武州上水社器械(細)	八百弗	全	全	全
二十	日百七十七個半	羽前金瓶社器械(銀込)(細)	八百二十弗	二志五片八分ノ三	三法十參	五十九弗五十仙
廿一	日二百三十七個	甲州草彌社器械(細)	七百九十五弗	全	全	全
廿二	日二百四十七個	羽前日渡リ器械(細)	八百十弗	二志五片八分ノ一	三法八參	五十九弗
廿三	日百九十一個	信州矢島器械(細)	八百十弗	—	—	—
廿四	日休					
廿五	日百四十九個	信州信英社器械(細)	七百九十弗	二志五片	三法六參	五十九弗五十仙
廿六	日四百五個	甲州廣盛社器械(細)	七百九十弗	全	全	全
廿七	日五百四十三個	信州最信社器械(細)	七百八十弗	二志五片八分ノ一	三法七參	五十八弗七十五仙
廿八	日五百二十七個半	美濃信勝社器械(細)	八百三十弗	全	全	全
廿九	日三百三十七個	美濃信勝社器械(大)	七百五十弗	全	全	全
三十	日三百一個	遠州大純社器械(細)	八百十弗	全	全	全

〔備考〕九月中生絲の商況は初旬にありては百九十三番館に於て思惑買を爲したると内地商人が見込買を爲したる等のため聊か人氣は引立ちたるも是れ全く一時の事に過ぎずして中旬に至りては外商も買控へとなりて新規の手合は稼々出來せず諸商館は本國の得意先へ陸續電信にて照會せし模樣なりしも指たる返信も來らざる由にて兎角不振の狀勢なりしが其頃よりして海外爲替相場は漸々低落を顯はし下旬の央には米着五十八弗五十仙の安直を來したるを以て儘に賣行ありたれども入荷澤山の時節なれば到底目先きに於て相場の昇騰すべき見込迚は立たざりき

●問　答

◎蠶種の件質問

新潟縣　大日本蠶絲會員　横田長太郎

(一)余昨年農務局蠶業試驗所に在りて採製したる蠶種の内百蛾分を賜はりたるを以て本年之を試育せるに其卵殼淡黄色を帶びたるもの六蛾同じく黄味を帶びたるもの十三蛾を見たり而して此黄色を帶びたるものは産種期に在りても他の普通のものと異なる點を認め符號を記し置きたりしも孵化の後は遂に其如何の色澤を呈したりしやは追考するを得ず只色澤は他と異樣に若くは不良なりしとの觀念を留め置きたりしのみ右の如き或は黄繭種に變化するの傾向を呈せるにはあらざるか

(二)上記の百蛾分より孵化せる蠶兒中其躰に全く斑紋なきもの(即ち姫蠶と同じきもの)及斑紋の淡色なるもの幾分か混交せるを明に認めたり右は前項の件と何等の關係なかるべきか

(三)余本年夏蠶種の檢査中其卵色殆ど紅色にして紫を帶びたるものゝ混交(普通製)しあるを見たり之を父老に質すに櫻種(其色櫻花に似たるの故か)と稱するものゝ由にて蟲躰繭質には敢て異狀を見ず其繭は却て佳良なりと余が實見せるものは框製にあらざるを以て確認は爲し難かりしも其産付の狀に就て察するに蓋し一蛾若くは數蛾が産せるものたるは明白にして一蛾の産卵中黑色のものを混交せるにはあらざるが如し右は只蠶卵一時の變態に過ぎざるべきか又は此の如き種の蠶兒中一系統を爲すものあるか

答

大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

(一)卵殼に黄色を帶びたるもの果して遂に黄繭種に變ずるや否は未試みざる所なれども斯る卵種より出でたる蠶の成繭中には淡黄色を帶びたるもの多しとす去る明治廿四年の試驗の結果に據れば赤熟の蠶種中卵殼白のものは其成繭一千顆中淡黄色を帶びたるものは僅に五十顆に過ぎざりしも黄色を帶びたるものは同數の成繭中淡黄色を帶びたるもの三百三十二顆の多きに及べり

(二)蠶躰に於ける斑紋の有無及其濃淡の如きは卵殼の色の如何に關せざるべし

(三)所謂櫻種なるものは一に飛斑と稱し淡く紅色を帶びたる卵大約一蛾分位づゝ恰も斑紋の如く混在せるにはあらざるか果して然らば第一問の卵子即ち卵殼に黄色を帶びたるもの即ち是なり

◎製種方に付き質問

德島縣　大日本蠶絲會員　須見勝三郎

(一)雄蛾甚だ乏しきときは一日に再度他の雌蛾と交尾せしめて害なきや

(二)雌蛾若くは雄蛾に剩餘あるときは翌日の雄蛾或は雌蛾と交尾せしめて害なきや

(三)前二項の場合に若し害ありとするも或る方法の以て其害を除くことを得べきや

(四)麥蛾、尻燒、縮羽等の如きは微粒子病に罹るか然らざるも軟弱なる病蛾なりとして之を取除くといへども或る製種家は一も之を除去せずして産卵せしめ而して豐作を得しことあり是に由りて之を觀れば敢て病徵として取除くことを要せざるか

答

大日本蠶絲會技藝委員　松永伍作

(一)雄蛾をして再度交尾せしむるも敢て害なきものと思料す

(二)雌雄蛾を蓄へ翌日用ひんとするには可及的温度の低き(華氏寒暖計七十度位)處に置けば著るき害なきものとす

(三)麥蛾其他不具なる蛾は幾分か虛弱なるべし然れども甚しからざるものは其産卵に敢て害を及ぼさゝるものとす

◎蠶糞の用法に關する質問

神奈川縣　大日本蠶絲會員　峯尾穆太郎

(一)人糞尿は無業植物中の芝(稲類芝稲類中の分裂微料に屬する植物を枯死せしむるの効力ありや

(二)蠶糞及蠶沙等を混合堆積して數日間强熱を起さしむれば前項の植物は枯死するか且つ過度に醱酵せしめたるがため肥料の養分を失する憂はなきや

答

大日本蠶絲會技藝委員　松永伍作

(一)生糞尿若くは腐熱せる糞尿といへども濃厚なれば其効あるものとす

(二)强熱を釀さしむれば其効あり又過度に醱酵せしむれば肥料中最も要用なる窒素を消失するの虞りあり

◎飼桑、烏爛蠶、膿蠶の件質問

群馬縣　大日本蠶絲會員　三浦靜一

(一)蠶室温度七十度内外のとき飼桑は始めて起蠶を見しより幾時經過するを適度とするや又七十五度以上八十度位のときは幾時を經過するを適度とするや

(二)飼桑時間早きに失すると遲きに失するとは其害何れに多きや

(三)烏爛蠶其色黑色に變ずるあり又赤色に變ずるあり又桃色に變ずるあり其病原の異なるに因り色澤を異にするや果して然らば色澤に付病原を問ふ

(四)膿蠶は其病狀を視察するに(光澤蠶)(節高)(膿汁蠶)等あり其膿汁を發するものを解剖するに脂肪醱解し血液に混じ其病原は食桑欠乏せしとき高温度に感じ或は空氣の鬱滯より起れるものゝ如し果して然るや否や

(五)膿蠶は第一齡より第五齡に至る各齡共眠前及上簇前第五六日目に發病するものなり此蠶病は發病の齡に限り斃れ次齡に至り發病するものにはあらざるや又稚蠶飼育に病原を釀し被害の輕重に因り發病に遲速あるのみにて何時にても發病するや

(六)第五齡第五六日目に至り斃るゝ蠶あり此狀健康と異なることなく手を觸るゝにあらざれば死蠶たるを知る能はざるものあり其病原何れにあるや

答

大日本蠶絲會技藝委員　八田遠也

(一)蠶室の温度七十度内外のとき飼桑は起蠶を見しより二十五時乃至三十時經過するを適度とし又七十五度以上八十度位のときは十八時乃至二十時を經過するを適度とす

(二)飼桑時間は早きに失すれば蠶見不齊となり又晩きに失すれば障害を被ふるも温度七十度位なれば寧ろ晩きに失するを可とす

(三)烏爛蠶にして其色種々なるあるは蓋し濕氣の多少に關するものにして其病原は同一なり

(四)膿蠶は問者の云はるゝ如くにして給桑の多量に原因するも食桑の欠乏せしとき高温度に感じ生ずることは經驗なし

(五)膿蠶は其發病稚蠶に釀し發害の輕重に由りて毎齡の末期に顯はるゝものなり
(六)病原は「パクテリヤ」にして其病勢急々猖獗を極はめ斃るゝものなり

香川縣　大日本蠶絲會員　馬場純治郎

◎ボルレー氏の演說中質疑

(一)會報十三號墺國ヨハンボルレー氏演說三ページ十一行(第三圖)斯う云ふ風に云々十三行蟲が蝕ひ込む憂が無い云々とあり圖解を見るに何に由りて蟲の蝕ひ込むことを防ぐを得るやの點判然せず且つ刈方の高さも分らず如何にや

(二)又仝十五ページ末行二ベルセントの硫化亞鉛云々とあり水の分量知れず如何にや

大日本蠶絲會技師委員　理學博士　佐々木忠二郎

答

(一)桑樹を高木造りになしたるときには其梢には二三本の枝を餘し置きて一二尺の長けに伸ばし之れより伸出する小枝を刈取り葉を摘取すれば桑樹の梢に拳の如き隆起を多く出さゝるに由り虫害を受くること尠なしと云ふに在り即ち拳の如き隆起を多く存するときは此所に虫害を受くること多く從て枝の隆起を妨ぐること多しと云ふにあり

(二)硫化亞鉛二「ベルセント」とあるは量目にて算し出したる割合にして硫化亞鉛二「ベルセント」と云ふは水量九十八及に硫化亞鉛二及を溶解するを云ふなり

外報

◎米國に於ける生絲需給の調査

今般農商務省より本年北米合衆國生絲の需給其他の調査に關せる問合に對し紐育駐在帝國總領事島村久氏より左の如く報告ありたり

本年生絲需要增減の見込　生絲需要の增減は惟一に絹物需要の盛衰に關す茲に本年絹物流行の摸樣を觀察するに以て大に生絲貿易を皷舞するに足るものあり即ち當國當業者の意見に據れば

曰く本年は衣服用品たると絹紐たるとを問はず凡て絹物の商業に於ては大に有望の年なり目下歐洲遊に當國に於ける絹物需要の摸樣は本年生絲の消費額に少くも昨年より二割乃至二割五分の增加を要すべく隨て新絲の產額に著しき增加を見るとも目下の相場より著しき下落を惹起すとなかるべし蓋し昨今の絲價は決して異常の相場に非ず曾て明治元年より同六年に至るの間及其後同九年に於ては今日よりも遙に高價を占め而して機屋に於ても大に豐利に潤ひ今日の如き薄利に甘ずるか如きことなかりしなり云々

曰く絹物の需要は目下大に增加の勢向あり追次價格を騰貴せるは殆ど疑を容るべからず故に本年の秋季に於ては絹業に異常の好況を呈すべき望あり云々

又曰く歷史の示す所に據れば夫の戰爭若くは開戰の風說若くは經濟の恐慌等ありて一般の商況を攪

亂するにあらざるよりは絹物にして一たび社會の寵遇を得るや少くとも四五年間其流行を繼續すること從來の經驗上明確の事實なり故に今後一箇年間は前年よりも絹物の流行一層隆盛なるや疑なし其緣由は此種の流行は常に富豪紳士中に始まり而後漸次大に中等以下の社會を風靡するものなればなり云々

以上は目下絹業季節の更始に當りて當市の重なる營業者等將來本貿易の景況を豫測せるせのなり但し本貿易の進路を一時阻遏せしめたるの事因は即ち本年春蚕の遲々たりしこと新絲の產額及絲質の良否未だ當國に於て確知せられざること近頃絹紐の大競賣ありしこと等是なり然るに此等の數事は幸にして本貿易將來の望を減殺せしむるに至らざりし

之を要するに今や絹物は殆ど日用必需品の伍に入て將に流行の盛時に遇ふ將來に於て縱令些少の障碍あるも劇に社會の寵遇を失はしむる如きとなきや明なり

是に由りて之を觀れば生絲需要の原素なる絹物の流行昨年に比し一層の隆盛を加ふるの勢向あり隨て生絲の需要も前季に比し更に一層の增加を見るに至るべし

抑々日本產絲の需要增減に關しては更に精察を要するものあり即ち昨年末以來當國の生絲消費者即ち機屋に於て支那產絲の使用漸次增加せしこと是なり此一事は本館既に汲々探察を遂げ屢次報告せしが如し加之本季節歐洲に於て生絲收穫の增額幾割なりや是れ皆我生絲需要の伸縮に直接の關係を有するものたり但し後者は既に遇報を以て報告せし如く本季收穫の增額は一割なるべしとのこと故巨大の影響なきに似たるも前者に至りては本季中我生絲の市域を蠶食する若干の程度に至るべきや殆ど豫測し難き狀況なりとす若し幸にして支那絲の侵害甚だ大ならざれば我生絲の需要も一般生絲の隆盛に伴ひ尙ほ需要增加すべしと言ふに躊躇せざるなり

附言絹物流行の豫測生絲需要增加の豫望は前述の如くなれども或は此豫測豫望をして烏有に歸せしむべきは當業者の所謂一般商況の恐慌是なり近來銀貨の下落は當國幣政の困難を致し各般商業の不振を來せり隨て目下生絲市場も沈靜の極度に達せりと言ふも不可なきに似たり若し不幸にして此の不振不活潑を永續するに至れば遂に商況の恐慌に陷り各般の豫測豫望は意外の結果を生ずべきこと實に免るべからざるの數理なり

本年絲價高低の見込　本年新絲の產額及絲質の良否に就き未だ詳細なる確報を得ざるの今日に當りて絲價の高低を豫測するは甚難事なりとす但し絹物需要將來の有望なることは已に前項中に纒述せる如き狀況なれば絲價に至りても亦蓋し雲烟模糊の中遙に違違を認め得るが如き感なきにあらず

昨季節中絲價の騰貴したる所以を原ぬるに既に當時の報告に附したるが如く概ね左の三原因に職由せるが如し

一歐米兩洲に於ける絹物流行の結果として生絲需要の增加

一各養蠶國に於ける收繭減額の爲生絲供給の減少

一需要供給の不平衡を利して流行せし投機的賣買

右三原因の中昨年絲價の騰貴を惹き起したる各自の比率に附きては固より容易に之を數字上に現すこと能はざれども要するに投機的の原因大部分を占めたりと云へり即ち其結果は絹織物の價格は絲

價の昂騰に伴はざるのみならず各絲市の絲價は銀貨高低の差額外に不畫一不規則を顯彰せり今試に昨年六月より本年五月に至る一箇年間横濱及紐育兩市に於ける機械最上一番毎月の最高最低相場及銀貨の爲替相場を平均し其の概表を作れば左の如し

年	月	横濱相場	紐育相場	兩市相場差異
二十五年	六月	六七二、五〇	七七一、四一	九八、九一
同	七月	六七七、五〇	七八五、六九	一〇八、一九
同	八月	七六五、〇〇	八五二、三六	八七、三六
同	九月	七九〇、〇〇	九五七、一二	一六七、一二
同	十月	八七五、〇〇	一、〇一四、二六	一三九、二六
同	十一月	八四七、五〇	九六一、八八	一一四、三八
同	十二月	八五〇、〇〇	九七六、一六	二二六、一六
二十六年	一月	八六七、五〇	九九五、二一	二二四、七一
同	二月	八八五、〇〇	一、〇一九、〇二	一三四、〇二
同	三月	九七二、五〇	一、〇五二、三五	七九、八八
同	四月	九八七、五〇	一、〇九五、二一	一〇七、七一
同	五月	一、〇二〇、〇〇	一、〇八五、六八	六五、六八

本表は時々刻々高低ある絲價と銀貨を平均せしのみならず單に横濱紐育兩市の相場のみに由り算出せしものなれば固より一部の推測に止るも亦以て投機的の取引絲價をして高低不定ならしめたる所以を觀察するに足るべし

本季節の景況を觀察するに需要は昨年季より減ぜざるのみならず却て稍と増加の望あり但し同時に生絲の供給額も亦昨季に比し少くとも一割増額の見込なり

當地に於て各養蠶地方より得たるたる本年新絲收穫の景況に據れば伊太利は昨年より一割乃至七分の増額なるのみならず絲質も亦昨年に優れりと云ひ又支那よりの來電は野蠶絲を除き本年大約白絲六萬六千梱黄絲一萬二千梱輸出の見込ありと云ふ即ち昨年より大約五千梱の増額なりとす而して日本よりは前季の輸出高四萬六千梱に引換へ本季は五萬六千梱乃至六萬梱の輸出あるべく且絲質も前季より良好の見込なりと云へり

本年世界生絲産額見込此の如くなれば絹織物の消費額著しく増加するも決して供給に缺乏を告ぐるとなし之に加ふるに本季節日本産の絲況は大に昨季節と其趣を異にするものあり即ち昨年の生絲市場は殆ど伊太利絲と日本絲との壟斷に歸せしも本年は大に支那絲の影響を受くることあるへく而して其支那絲の價格は甚だ高貴ならずして即ち上海市場に於ける新絲の初手合を聞くに七里絲の金麒麟號一基に附き三十一法乃至三十一法四分の一を以て取引せるが如し

是に由りて之を觀れば本季節の絲價は昨年の如き好況を再現すると能はざるは固るより辯を俟たざるが如し

蓋し本年絹物の需要或は前年よりも一層の隆盛を見るべしとは云へ前項論じたるが如く昨今の金融

逼迫遠に救治せられ以て絹物流行前の途を妨ぐるなくんば或は生絲の價格に甚しき低落を惹き起すことなかるべし但し前季節の如く再び投機的取引の流行絲價をして暴騰暴低の變象を現はすことあらんも此は豫期の外と云ふべきのみ

輸入生絲の殘額前年度との比較　季節末に於ける輸入生絲の殘額を知ると極めて難く固より當業者の推測に過ぎざれども今聞き得たる所に據れば大凡左の如し

明治二十五年六月　殆ど無し

明治二十六年六月　大凡千二百俵

本季節に於ける生絲の殘荷は右見積額の外尚ほ重なる機屋の所有するもの多少之あるべし

右の如く前季末に於て殘荷殆ど之なかりしは同年春に當り當地織屋漸く多忙を極め爲に生絲市場に未曾有の好況を呈したるに由る而して本季節の殘荷多きは蓋し投機的競買の結果なるべし

將來銀價高低の見込　銀價の高低は獨り北米合衆國の經濟問題に止らず實に坤輿の經濟問題なり故に單に合衆國の財況に據り銀價の高低如何を推論するが如きは殆ど爲し得べからざるの業なり但し今日合衆國は銀の產出額に於て各國の主坐を占め消費の高も亦萬國の上位に居るを以て其一擧一動は萬國の經濟に影響する決して淺少にあらざるべし

抑々近年白銀の下落は非常の低點に達し其の影響世界の財政に波及し就中合衆國の如き內外貿易の不振、工農各業の慘澹實に悲慘の狀況を呈せり而して此の下落の原因に至りては種々の說ありと雖も白銀需要供給の平衡を失すること其一重因なるが如し試に全世界銀の產出高を擧ぐれば左の如し

年次	產出額	年次	產出額
一八八三	二、七四六、一二三	一八八八	三、三八五、六〇六
一八八四	二、七八八、七二七	一八八九	三、九〇一、八〇九
一八八五	二、九九三、八〇五	一八九〇	四、一八〇、五三二
一八八六	二、九〇二、四七一	一八九一	四、四七九、六四九
一八八七	二、九九〇、三九八	一八九二	五、九三五、三一五

右の如く白銀の產出高は逐年增加し殊に兩三年來著しく增加せり而して該額中合衆國產出に係るもの其の大部分を占む即ち造幣局長の報告に據れば過去十五年間合衆國白銀の產出額左の如し

年次	產出額	年次	產出額
一八七八	三四、九六〇、〇〇〇	一八八六	三九、六八五、五一三
一八七九	三一、五五〇、〇〇〇	一八八七	四一、七二一、五九二
一八八〇	三〇、三二〇、〇〇〇	一八八八	四五、七九二、六八二
一八八一	三三、二六〇、〇〇〇	一八八九	五一、三五四、八三九
一八八二	三六、二〇〇、〇〇〇	一八九〇	五四、五一六、三〇〇
一八八三	三五、七三〇、〇〇〇	一八九一	五八、三三〇、〇〇〇
一八八四	三七、八〇〇、〇〇〇	一八九二	六四、九〇〇、〇〇〇
一八八五	三九、九一〇、〇〇〇		

本表の如く合衆國産銀の増加は最近兩三年に至り實に長足の進歩と云ふべし而して銀の需要額に至りては詳細の統計なきを以て確知するに由なきも器物用及貨用の消費額は産出額に對し巨大の増加なきこと世人の能く認識する所なり今貨幣用として萬國中最も需要多き印度及合衆國に於ける過去の銀貨鑄造を擧ぐれば左の如し

印度銀貨鑄造高

年次	鑄造高
一八五八—一八六二	四二、〇三四、六五二盾
一八六三—一八六七	五一、七一三、二二二
一八六八—一八七二	一九、四〇二、四六七
一八七三—一八七七	二〇、〇六九、七五八
一八七八—一八八二	一八七八—一八八二	四〇、〇八四、〇一三盾
一八八三—一八八七	一八八三—一八八七	五〇、八六八、一九二
一八八八—一八九二	一八八八—一八九二	四六、六八二、三九八
一八九二—一八九三	一八九二—一八九三	七、〇〇〇、〇〇〇

但し毎年四月に起り翌年三月に終る

合衆國銀貨鑄造高

年次	鑄造高
一八八三	一九、二四六、九五八、四五弗
一八八四	二八、五三四、八六六、一五
一八八五	二八、九六二、一七六、二〇
一八八六	三二、九六二、一七六、九〇
一八八七	三五、一九一、〇八一、四〇
一八八八	一八八八—一八八九	三三、〇二五、六〇六、四五弗
一八八九	一八八九—一八九〇	三五、四九六、六八三、一五
一八九〇	一八九〇—一八九一	三九、二〇二、九〇八、〇〇
一八九一	一八九一—一八九二	二七、五一八、八五七、〇〇
一八九二	一八九二—一八九三	一二、六四一、〇七八、〇〇

此の如く印、米兩國に於ける銀貨の鑄造は敢て少額にあらずと雖も萬國に於ける産銀高に對すれば比較的に増加すること甚だ少なきのみならず此の一兩年來、米國の銀貨鑄造額は大に退縮の勢向を顯せり

往古に溯ることを止め二十有餘年間銀價の狀況を觀察すれば千八百七十一年獨逸に於て貨幣を單金本位と定めし以來羅典聯合貨幣條約國に於て銀貨鑄造を停止し其他種々の緣由に由り萬國に於ける銀の需要は逐年減縮し其結果白銀の供給は需要に超過し價格は下落の一方に偏向せり即ち過去二十年間合衆國政府購入の一年間平均白銀毎オンスの價格は左の如し但し數量、元價も參考のため併記せり

年次	一年間平均毎オンス價格	數量	元價
一八七三	一、三二二五盾	三、〇二七、一一一オンス	四、〇〇三、五〇三盾
一八七四	一、三〇八二	二、四〇七、一七一	三、一四九、〇六一
一八七五	一、二三八〇	六、四五三、二六二	七、九八九、一七四
一八七六	一、一七〇九	一四、〇五九、四二〇	一六、四六二、二三一
一八七七	一、一八二六	一一、〇九一、二二四	一三、一一九、七四四
一八七八	一、一六一七	二四、三五八、〇二五	二八、二九八、〇六一
一八七九	一、一二四四	一六、五九四、六三九	一八、六六〇、〇八八
一八八〇	一、一三九六	二二、七四二、六三四	二五、七一八、二一五
一八八一	一、一二六五	一九、六一一、七四二	二二、〇九五、五七一
一八八二	一、一三七〇	二一、八七八、四八九	二四、八七七、二五四
一八八三	一、一〇一二	二三、一六九、九五〇	二五、四六八、六七七

一八八四	一、一〇〇七	二一、六八三、七九八（オンス）	二四、〇二〇、〇六四（ポンド）
一八八五	一、〇六二〇	二一、一四七、三六六	二三、五二二、六四六
一八八六	〇、九九二三	二五、六九九、八九八	二五、五〇四、四六七
一八八七	〇、九七六〇	二四、六一一、二四三	二四、〇二〇、五六六
一八八八	〇、九七八五	二五、〇二八、三五八	二四、四九一、三四一
一八八九	〇、九三五六	七二、一二五、三五八	二五、三七九、五一一
一八九〇	一、〇六二六	三七、八九五、二〇〇	四〇、一三六、五〇一
一八九一	〇、九八九〇	五四、三九三、九二三	五三、五三〇、六五一
一八九二	〇、八七五五	五四、一二九、七二八	四七、一二八、〇七七
計		四五八、一〇九、五二九	四七七、五七五、四〇三

本表に據れば銀價の漸次下落せる事實は明瞭なり但し千八百九十年に至り一弗六仙二厘五毛に騰貴したるは「シヤルマン」購銀條例施行のため一時影響を受けたる結果なりと云ふべし

合衆國政府は夙に白銀價格の維持策を講究し千八百七十三年以來各種の條例を制定し銀塊を購入せしこと既に前表の如くなるにも拘はらず銀價の下落は恰も大厦の傾頽一木の支ふべからざるの勢向あり而して其影響は米國の財政及商工の各社會に波及し銀行及製造所等の倒産閉鎖陸續相起り金融必迫各業不振の悲境に沈淪す乃ち政府は八月七日を期し臨時議會を召集し理財困難の救治策即ち「シヤルマン」購銀條例の廢否を論定せんとするの擧實に已むを得ざるの次第と云ふべきのみ

更に目下銀價の狀況を概述せんに去月下旬印度政府に於て銀貨の無制鑄造を停止せりとの電報一たび米國に達するや八十三仙半の銀價は忽ち七十八仙半に下り尚ほ同月二十九日に至りては六十三仙の最低價に下れり米國著名の銀鑛業家は直にデレバー府に集會を開き銀鑛採掘の停止を決議するや同月三十日に至り白銀の價格俄に一「オンス」米金六十八仙に上騰せり而して昨今米國政府購入の銀價は一「オンス」米金七十仙の低價なるに拘はらず大藏省の門を叩く白銀所有者は陸續絶えざるの狀況なりと云へり

蓋し將來に於ける銀價は尚ほ下落すべき傾向あるに似たり加之若し米國政府に於て「シヤルマン」購銀條例を全廢し毎月四百五十萬「オンス」の白銀購入を停止するに至れば白銀の價格は益々下落すべきのみ

之に反し該條例依然現存せんか從來の如く毎月四百五十萬「オンス」の購銀は既に以て白銀の價格を維持するに足らざるに似たり但し米國可銀者の持論たる銀法無制限鑄造法律又は類似の新案を規定し大に銀の需要を增加し供給との平衡を得せしむるか又は來十一月萬國貨幣會議に於て各國協議の末金銀の比率を一定し白銀の用途を擴張するに至れば反對の結果を生ずべきは今更喋々の贅述を要せざるなりと

◎米國パタソン市に於ける絹業實況視察

北米合衆國ニユー、ヂヤルジー州パタソン市に於ける絹業實況視察の件に關し紐育駐在帝國總領事島村久氏より過る八月十六日附を以て其筋へ左の報告ありたり

當國現今金融の逼迫は古來多く其類を見ざる程の珍事にして銀行の倒産、會社の休業及製造所の閉鎖等商工業社會の不幸は日々の新聞紙上に臺出せざるなきの狀況なれば近年來斷米流行の風潮に乘ぜる絹織物も今や一般の潮勢に隨伴するを得ずして絲況大に不振の狀況なるに由り茲に本月九日を

トし當國絹業地の巨擘たるニユー、ヂヤルヂー州パタソン市に赴き其重なる織屋染屋及織機製造所等を歴訪して實地の狀況を視察せり

パタソンは紐育市の西北十七哩に於ける一の製造市にしてパセイク河其三面を環流し人口凡そ八萬を有す本市は絹業に著名にして絹業の發達は米國中第一位に居れり最近の調査に據れば其統計左の如し

廣幅物織機	七、一三〇臺	職工	一七、五二一人
絹紐織機	二、四五四	資本金	一三、五〇五、八〇〇弗
組物機械	一、四八六	一箇年職工賃銀	七、二六六、七五〇
錘數	二四六、七〇三本		

又染屋の職工資本金等を擧ぐれば左の如し

職工	一、四六四人	一箇年職工賃銀	六七七、四〇〇弗
資本金	一、三七九、五〇〇弗		

更に織機其他絹業に關する器具、機械類を製造供給する商社の職工資本金等を擧ぐれば左の如し

職工	六一六人	一箇年職工賃銀	二八七、二〇〇弗
資本金	四〇六、〇〇〇弗		

以上は本市に於ける絹業の概況なり而して目下の景狀は一週日中三日就業するあり四日就業するあり又半日就業半日廢業するあり之を概言すれば先づ全織機の一半は運轉を爲し他の一半は運轉中止の有樣なり當業者の言ふ所に據れば本年絹業の不振は本年五月の末に始り今日に至る凡そ二箇月半に渉れり尤も舊季節の終新季節の始に當りて絹業多少の不振を見るは例年の事なれども本年は金融逼迫の影響を蒙り絹帛絹紐の新注文殆ど皆無なれば一層の不振を加へたるなり幸に當國經濟上の信用一たび回復し金融暢通して一般の商工業其常道を取るに至らば絹帛の新注文を見る固より疑を容れざるなり

本年秋季の交に至らば當國の織屋に於て織機運轉の繁忙を見んこと今日よりの豫期なり若し不幸にして現今の如き不振の狀況永續するあらは或は織機の運轉を全廢し數萬の職工は飢渴するに至り當市の困難名狀すべからざるものあるに至らん

當國の金融暢通の秋に至らば各般の商工業活潑に運轉すると共に絹業も亦繁忙に赴くべきことは前述の如し茲に絹業家の更に將來に疑懼を懷き居るものあり即ち夫の關稅法の改正是なり世人の知る如く製造原料を無稅にて通關せしめ製造品の輸入に重稅を課し以て內國の工業を保護するは即ち當國現行稅法の精神なり是れ現政府即ち民主黨の排擊する所にして剩へ兩議院共其黨多數を制し居れば或は遂に現法を廢棄して其黨の主義なる歳入關稅法を製して之を實行するに至るべし果して然らば既製品たると未製品たるとを問はず一樣に課稅することなれば其當國の工業を害すること言を俟たず就中絹業の如きは最も其影響を蒙るべく而して當國絹業の衰頽は即ち本邦生絲の販路を縮少すべし但し其結果の一として同時に本邦より絹織物の輸入を增加し得べき道理なり果して本邦絹織物輸入の增加は生絲輸入の減縮を補ひ遂に進て歐洲製輸入の絹帛絹紐と當國市場に競爭し得るや否之を要するに當國關稅の改正は我生絲絹帛に直接の利害を與ふべし

本月七日大蔵卿より目下財政困難の救濟に關し臨時議會へ送付したる敎書中實に左の語あり

關稅の改正も亦方今の緊務にして一日も忽にすべからざるものなれば當に不日議會に要むる所あるべし云々

我生絲及絹帛當業者は宜しく當國の事情を熟察して豫め之に應じて變通するの策を講ぜざるべからず

● 雜報

◎信濃春蠶種製造の減少

信濃蠶種組合の製造に係る春蠶種の檢査は例年の如く去る八月十日より着手し仝二十八日迄に結了して證紙を貼附したる高は合計三十二萬一千餘枚にして之を昨二十五年の證紙貼用額合計十七萬八千一百四十三枚に比すれば五萬七千餘枚の減少なり勿論九月に入りても倘幾許か受檢者あるべしと雖も是は僅々の數に過ぎざるべければ先づ之を七千枚と假定して本年の製造高昨年より減少すること五萬枚内外と看做すも大差なかるべし而して此減少を來せるは氣候の寒冷なりしため掃立季節の後れ隨て蛆害多く良蛾少かりしに原因すと故に其欠を補ふがため掛合せと稱する蠶種（春蠶の雄蛾を夏季の雌蛾に交尾せしめて得たるもの）の產出は昨年に比し殆ど倍數にも達したるべしと云ふ

◎世界博覽會出品生絲の英文目錄

横濱同伸會社にては目下米國チカゴ市に開設中の世界大博覽會へ出品したる製絲の目錄を英文にて作り此程出來せるが書中には第一に製絲の略歷史を揭げ次に同社に於て販賣する各製絲の商標を載せ其末に商標の順序を逐ふて各製絲場の位置、製絲の種類、創業の年月、社長及檢査役の氏名、供用する繭の種類、釜數、毎年の製產額、職工の員數、就業季節、器械の種類、大小の博覽會及共進會にて受賞の事等を一社毎に記せり表紙は茶褐色にして之に散り椒と桐とを染出し製本も頗る雅美なり同社が之を印行したるは彼國に於ける機業家は勿論各花主及關係の向へ配布して出品と共に外人の注意を惹くためなりと至極面白き思付なり

◎倫敦に生絲を輸送す

横濱に於ける生絲の取引は近來米國市場甚だ不振なるが爲め信州器械太筋物の如きは捗々敷手合なく外商は各見送り居て在荷も非常に嵩み取引商は殆ど持あぐみし折柄兩三年以來生絲の取引を中止し居たる百九十三番館は倫動より注文を受けしとて突然市場に顯はれ茂木澁澤の兩商店より信州器械製五百個を買收し續きて座繰絲等をも購入せしかば人々奇異の思ひを爲し元來倫敦には我生絲を「ブールス」の備品に充つるのみにて是迄多く買入れたることなきに俄然同館が倫敦より注文に接したりとて米國向き太筋物を購收するは彼れ外商の思惑買か將た內商中の有力者が同館に托して投機買を爲すものならんと想像し巷說紛々たりしも九月十日に同館は佛國郵船にて二百十四俵を歐洲へ向け輸送せしかば倫敦より注文を受けしとは全く虛構の言にあらざりしとて內外商共に疑を解きたりきさるにても米國向きの生絲が倫敦へ行くとは如何なる故なるやとて尙不審を抱ける輩もありしが右は米國に於ける銀問題よりして同國の金融一時逼迫し商工業の衰頽を來したるため米人は倫敦にて金融を計り横濱

の生絲をば一先づ倫敦に輸入し更に之を米國に輸送して機業家へ貸賣することゝなし大に金融の途を開きたれば頃日米國向き生絲を買入れ之を倫敦へ輸送するもの一二商會に止まらざることゝなり曩に百九十三番館の買入を爲したるも其因由する所判明するに至れり又先頃よりして七十一番館にても米國向きの生絲を買收し居るが是等も同じく倫敦に輸送して夫より米國に再輸出を爲すものなりとぞ

◎生絲取引所設置の議

横濱蠶絲貿易商の有志者中に生絲取引所設置の計畫ありとは豫て聞く所なりしが去る八月三十日の夜組合事務所に於て有志者の集會を爲したるに出席者十五名にして原善三郎氏欠席に付き若尾幾造氏委員總代となりて委員會にては取引所を設置するに決したる事又他に出願者の競爭等ありては不都合なれば去る二十一年中「ブールス」の設立を出願したる二十一名の人々へは一應賛否如何を問ふことに決したる旨を報告して夫より協議を遂げたるに一人の異議者なかりしかば委員諸氏は當夜欠席したる人々に廻狀を以て其旨を通知し又「ブールス」の出願者には相談を爲すことに取極めて散會し九月十五日午後一時より蠶絲貿易商外の賛成人即ち曩に「ブールス」を出願せし人々と熟議する筈なりしに當日の出席者は委員を合せて僅に六名に過ぎざりしも兎に角設置することに決し尙念のため事務員をして不參の人々へ意見を問はしむることゝして別れ全二十日再び相談會を催したるに相變らず欠席者多くして開會するに至らざりしかば委員たる原善三郎、若尾幾造、飯島勇造、大河原英二郎の諸氏より回狀を以て夫々記名調印を需めたりと云ふ

◎人造絹絲と人造絹布

人造絹絲即ち或る樹皮を以て擬絹絲を製造するの方法は去る一千八百八十九年佛京巴里に於て開設したる世界大博覽會にて始めて世間に顯はれ人々の注意を惹きたれども當時は尙不十分の點多かりしが爾來幾多の改良を加へ且つ經驗を積みて優品を製出するに至れり現に佛國ベザンハンに於ては其法に從ふて製造したるものを以て織物を製出するとのことなり右人造絹絲の原料は從來抄紙の料に供用するが如き或る樹木の皮にして之を敲きたる後蒸瀘鑵にて乾かし硝酸と硫酸との混合液中に浸し次に清水にて善く洗滌し「アルコール」に入れて乾かし再び「アルコール」と「イーザー」の混合液中に入れて溶液となし之を漉して後長き管の中に注入す此管には其周圍に無數の小孔を設け最初は栓を爲し置き右の溶液を注入したる後其栓をば取除きて溶液を壓搾すれば纖線を爲して小孔より迸出すべし是即ち絲の下地なり其線は柔軟にして粘着すれども「アンモニヤ」と水とを混合したる液にて之を洗ふときは「イーザー」と「アルコール」とを去るを以て忽ち硬化して堅靭となり光澤と云ひ强度と云ひ天然の絹絲と毫も異なる所なきに至る斯くて其六線を合して絲と爲すなり往年シヤドンネー氏が此發明を爲して始めて世間に公にせしとき尤も批難を受けたるは燃燒し易しと云ふにありて當時の人造絹絲は一秒間にし二「センチメートル」の割合を以て燃燒すべし斯る性質の物は衣服とするに適當せずとの評判なりが前記する所の製造手續中粘質線を水と「アンモニヤ」との混合液にて洗ふは即ち此不完全なる點を除かんがためにて是改良の一なり又粘質線を洗ふまでに折れることあるが故に長短定まらざる屑絲を出すこと多かるべしとの批難もありしが是亦改良することを得たり而して此絲を以て織製したる人造絹布は其價格至廉なるが上に美麗と云ひ又其質の丈夫なることゝ云ひ本物たる純粹の絹布に讓る所なけ

れば佛國人は孰れも人造絹絲を以て生絲の大敵なりと評し合へりと眞否は未確言するを得ざれども兎に角油斷のならぬことにこそ

◎生絲買占運の失敗

横濱の生絲取引商中魁先して米國向きの生絲を買占めたるは若尾逸平、田中新七等の諸氏なりしが不幸にも其の見込は瓦落裏と外れて意外の損失を招きたりと蓋し氏等が買占を爲したるは米國々會の議決次第にて外國爲替相場には非常の變動を起すべし果して然らんには其機に投じて一攫萬金の巨利を博し得べく又生絲の價格にも大變動を來すべくと思惟してのことなるに料らざりき生絲は思惑買のために期する如き廉價を告げず又外國爲替は意外にも手堅くして其昇降の度合も差したることなかりしかば策略の施すべきなくして遂に失敗を取りたるも兩氏共に其見込の外れたることを早くも察して速に手を引きたるがため其損失は割合に巨額ならざりしと

◎信州の製絲家前途を憂ふ

本年の蠶絲貿易は眼先回復の望なく製絲家及生絲商皆其前途を想ふて只長大息するのみなるが是等製絲家は昨年意外の好況に僥倖にも一時堵に安んずるを得たるも望蜀の念今年の生絲貿易には餘程の望を屬し居たることゝて其恐怖の念も一層甚だしきものあり斯く昨年は好況を得たるも溯りて去る二十三年の狀況を追想すれば其最も甚だしき慘況に陷りし信州須坂製絲家の如き尤も氣の毒の有樣を呈したることにて同地は東行社、俊明社其他を合し其釜數凡三千二百餘條なりしが右等製絲家が二十三年に蒙りし損失は實に一釜に附き平均五十圓に達し即ち百人絲の器械場を有せるものは五千圓の損失を蒙りたる勘定にて前記釜數中休業の分もあれば先づ假に須坂全躰を三千釜と見るも其損失金額は凡十五萬圓となり之を製絲家戸數百三十五戸に割當つるときは平均一戸の損失千百十一圓餘となる譯なり而して此現象は獨り須坂のみにあらずして松代然り諏訪然り斯の如く四年前に非常の困厄に遭ひしことは信州全躰の製絲家皆同樣のことなれば二十三年の困厄と本年の困厄とは其性質異なり又境遇異なることなるも扨此際に於ては右等既往の困厄を追想し將來の成行を案じて皆戰々兢々たるの狀ありといふと中外商業新報に見えたり

◎松山に製絲工場起らんとす

愛媛縣下松山市に於ける松山蠶絲株式會社にては從來養蠶・製絲の二事業を營み居りしが養蠶事業は年の如何に由りて往々引合ひ兼ぬることのあるのみならず地方に產出する繭を買入るゝ方一般養蠶家の利益にもなればとて自今は製絲を專業とすることに決し是迄同會社の桑園たりし松山市の南に隣れる藤原村の地所に一大工場を設置し蒸氣機械を据付くる筈にて今や既に其建築に從事中の由なるが本年内には落成して執業をなすに至るべしといふ

◎無證印蠶種の賣買

山梨縣にては嚴密なる蠶種檢査規則のあるにも關せず養蠶家自用の蠶種は之を例外に置き其分に限り檢査を受けずして差支なきことゝ成居れるため近日檢査證印なき蠶種を賣買するもの各地に多く其一枚の價格は檢査濟のものに比して凡四五錢方低下なるよしにて人若し之を咎むれば無論に自製品なり自用種なりと答ふる仕組なりと去るにても僅々四五錢位の低價のため縣廳の保證なき無檢査の蠶種を

買受くるは養蠶家に取りて頗る危險の如くなれども元來賣買双方の間に存する積年の信用は決して檢査證印の有無に因て增損するものにあらず且つ檢査證印は是唯粒微子毒の制限より少なきことを保證するに止まれども養蠶家の第一に注意する所は原種の健全なるものを擇ばんとするに在るを以て某家の製種とさえ分らば其にて十分なりとし其餘の事は敢て問はざるの習慣もあり旁以て無證印種の賣買が頻に行はるゝとのことなるが果して實説ならんには誠に苦々敷事ならずや

◎富岡製絲所

前號に記載せし如く富岡製絲所は客月十日を以て入札拂に附し三井高保氏に落札せしが本月一日悉皆引渡濟となりたるに由り翌二日勅令第百六號を以て同所の官制は廢止せられ所長速見堅曹氏以下屬官技手は孰れも非職の辭令を受けて同時に殘務取扱を命ぜられたり抑も同地方の繁榮と衰頽とは一に製絲所の盛衰如何に關することなれば最初入札拂の告示あるや同地方の人民は頗る其成行を懸念し居たるも三井家の所有に歸したるを以て孰れも安心したる由又上州の實業家は同所の入札拂に附せらるゝに方り他國人の掌握に歸せざらしめんと欲し佐位那波の實業家一大團結の精神を代表し勇を鼓し競爭を試みたる森村堯太氏の如きも其目的を達すること能はざりしかば其反動力は同志合資の團結力を以て富岡製絲所に頓頑すべき一大製絲場を創設せんとする意氣込みとなりて專ら其計畫中にありとのことなれば同所が彌々三井氏の所有に歸したるも地方的感情を以て之に妨害を試むるが如きは萬々あらざるべしとのことなるが上州人の氣象性質として嫉妬ク間敷卑劣なる行爲は記者も亦必ずなかるべしと信ず

◎蠶種改良組合の解散

長崎縣下肥前國南高來郡にては蠶絲製造家共同して郡内の蠶種に改良を加へ以て自他の信用を博せんことに着目し先年來組合規約を設け居りしに本年秋蠶種の不足より老練の製造家某が夏蠶種の遇種をば秋蠶種の特別品なりと吹聽して販賣せしより其事露顯し組合員一同に某の所爲を以て規約を破りたるものとなし種々紛議を生じたる末屢次組合會を催したるが遂に組合を解散することゝなりたる由

◎蠶種繭絲品評會の概況

新潟縣北蒲原郡の有志家にして我大日本蠶絲會員たる五十嵐惇爾氏外九名が發起者となり同郡水原町に於て蠶種繭生絲品評會を開設し特に蠶絲會に向て審査員の派遣を請求したるを以て其請を納れ吉池慶正氏に之を委囑したることは前號に記載せしが今や其景況の詳報に接したれば之を摘記せんに右は已に三回目にして去る八月九日より十四日までの六日間開會せり本年は春來氣候不順にして一般に春蠶の不結果なりしがため出品の數は減少せしにも拘はらず猶蠶種は二十五點繭は百十八點生絲は五十三點外に參考品五十五個參考書籍六十餘部にして之を前年開きたる第一回及第二回の時に比すれば大に其數を增し且品位に至りては頗る上進せり十四日には籠手田縣知事を始めとして鄉田郡長及郡書記等臨會して褒賞授與式を擧行し祝辭又は演説ありて非常の盛會なりき審査は吉池氏が熟練と公平と勵精の三つを以て從事せられたれば出品者も大に滿足したる由受賞者は總計七十八名にして特に優等者には知事よりも褒狀を付與したりと云ふ

◎墺人ボ氏の日本蠶業に關する意見

墺國政府の命を帶びて過般本邦に來遊し各養蠶地の巡見を爲したる墺國グルッ農藝化學試驗場長ヨハン、ポルレー氏は頃日我日本養蠶業の發達に關する意見書を草して之を農商務大臣に呈せり其說の當否如何は姑く措き更に角外人の所見殊に有名なるポルレー氏の所見なれば左に其全文を揭出すべし

曩に貴省次官へ面謁の際依頼せられたるに依り日本養蠶業の發達に關する意見を左に陳述し以て閣下に呈するの榮を得候

一歐洲試驗場の規模に準じ中央蠶業試驗場を設置し大學教授と官等相當の所長をして之が事業を獨立に且嚴密學術的に經營監督し十分其責に任ぜしめ且試驗事業に通曉せる適當なる學術助手をして之を輔助せしむべきものとす

此試驗場の事業は左の如し

甲　養蠶業及び桑樹種藝の全般に係る學術上の研究

乙　講義及び試驗成蹟の編纂に據て蠶業教育の普及を計り且地方蠶業試驗場々長及び蠶業教師たるべきものを養成すること

丙　養蠶業改良に關する總ての問題に就て官廳の諮問に應じ農會及び人民の質問に答ること

余は西ヶ原試驗場に關しては敢て意見を陳述し又敢て論議を試むるを欲せざれども之が現今の組織は十分に事業の發達を計るに適せざるものゝ如し

二日本の重要なる蠶業地の中央に地方蠶業試驗場を設立し特に養蠶期中講義を開設し合理的の飼育法及び蠶種の框製法を示し養蠶家を導き學理應用の諸法を例示すべし此試驗場は又爲めに必要なる出費を償ふに足るの程度にて適當なる手數料を取め人民の依頼に應じ顯微鏡檢査を行ふものとす、此地方試驗場は中央試驗場及び蠶業者間の交接機關となり蠶業改良上後進者を幇助すべきものとす

三現時養蠶を行ふか若くは將來之を行ふに適する地方の小學校高等科に於て男女生の別なく養蠶及び桑樹種藝に係る大意を授け以て成長せる兒童をして合理的養蠶法に通ぜしめ且斯業に對する企望心を養成せしむべし

小學校訓導をして蠶事教育を行ふを得せしむるが爲め師範學校に於て男女生共に養蠶に係る教科を設け中央試驗場卒業生をして之が教授を司らしむべし

四養蠶業に適するも現時尙未之を行はざるか若くは僅に之を行ふの各地方には桑苗を配布すべし或は相當代價を以て之を拂下ぐべし此配布桑苗を仕立るが爲めに二三の地方に桑苗園を設くるものとす

五官設鐵道若くは保護鐵道會社をして桑苗、桑葉、生繭、殺蛹繭、生絲及び屑絲の運賃を成るべく減減せしむべきと

六蠶種の賣買取締法を設け正當に組織せる機關をして之を施行せしむべし而して顯微鏡的檢査は蠶卵を發生せしめて後之を行ひ單に微粒子の有無を檢査するに止め其微粒子なき蠶卵に限り健全を公證すべしコルナリア氏法に據て檢出すべき病毒の歩合は宜しく之を廢止すべし蓋し斯る歩合は全く不確實にして且精密を欠くものなり殊に發生虫を檢査せざるものに於て然りとす

七蠶種の行商は宜しく之を禁止すべし要するに行商なるものは決して信を置くに足るべきものに非ずして其賣買に詐僞手段あるを常とす通例農民の無智若くは欺かれ易きに乘じて商號を詐り粗惡なる卵種を賣付けると屢なり

八收繭期中主なる產地に於て公開市場を設立し繭取引を監查すべし此公開繭市場は歐洲に於けるものゝ例に則り組織すべく而して特り取引所內に限り繭の賣買を爲さしむ可し

重量秤定は必ず市場取締の面前に於て之を行ひ必ず檢定を經たる衡を用ふべし、各種繭の品位、量目及び價格は宜しく帳簿に登記し之に據て各種の重要なる繭種例へば黃繭、白黃、夏蠶繭等の每日の平均價格及び一年の平均相場を算出すべし

斯く公定せる每日の平均價格は各市場に於て每日電報を以て之を公示し賣買兩者間の參考に供すべし然りと雖も繭及び生絲の卸商は歐洲に於けるが如く各種類の一年平均相場を以て其價格査定の標準となすべきなり、歐洲に於けるが如く日本に於ても亦斯る年平均相場を標準として製絲家は其業務に必要なる繭を豫約することを得べく而して養蠶家は據を以て繭に對して前借を爲し或は又販賣取引を確定し其利を享くることを得べし

嚴密に監督せる公開繭市場に於ては繭生產者は屢不安心なる仲買及び繭仕入人に由て不正の利を貪らるゝことなく又私の賣買に於けるが如く不正なる權衡及び種々の瞞着的不正手段を施さるゝの餘地なからん

九生絲幷に殺蛹、繭、屑絲及び眞斗絲等の如き製絲的物產の賣買は宜しく之を監督すべく而して歐洲

に於けるが如き生絲檢査所に於ては生絲の乾燥量を檢定するの外尙は出願に應じて纖度、强力及び彈力を檢定すべし又乾繭の賣買に於ては該檢査所に於て絲量及び屑量を檢定し繭取引に係る標準を授くることあるべし

十坐繰法に係る小養蠶家の損失を成るべく減ぜんが爲めに政府は免稅若くは奬勵金の下附等に由て成るべく大製絲場の設立を奬勵すべし、特り歐風製絲場に於て製出せる生絲に限り最高價を占むるに必要なる品質を備ふるものなれば單に斯る良品を製して能く養蠶業に最多利益を占むるを得べし而して生產家は生繭を直に斯る大製絲場に販賣するを得べく以て不合理なる殺蛹を行ひ之を貯藏し粗雜なる坐繰器械を用ひて比較的價値なき生絲を製出するの不利を免るゝに至らん

余の考ふる所及び余の日本に於て視察せる所に據れば政府は日本蠶業改良の爲め余の右に陳述せる所の意見を實行するを難しとせざるべし而して爲めに必要なる經費は之を數年に分ちて支出するとなるが故に依て得る所の利と比すれば甚し不當なる額にあらざるべし之を實行するに當りては中央政府及び地方廳は爲めに經費を節減せざるを得ざるべきも此節減額は日本農事中最も優美なる所の養蠶業改良の資に充て以て幾多の保護を要する農民の利となるに外ならざるなり余は閣下の希望あるときは茲に簡單に陳述せる私見及び之が執行に適當なる方案に就て詳細說明するの勞を執るべし

桑樹種藝に係る改良は容易に政府に於て執行する能はざる所なり然れども蠶兒及び製種に係る改良方法及び養蠶家自身の遵守すべき諸般の改良方法の如きは余は六月二十日東京に於て之を演說せり

余は雜誌を以て世に公けにせられたる余が右の演說及び余が日本內地に於て養蠶家に口授せる所は日本蠶業に利し以て之が改良進步を促したる所あらんことを希望す

余は余の巡回中蠶業上に進步の諸點を目擊せるを喜ぶなり蓋し斯る進步は先覺ハーベルランド氏及び余の著述せる諸書を反譯し普く頒布せるに由り養蠶家は之に準據して大に發達せるものなるべしと雖も又日本政府のゲルッ試驗場に數回派遣し日々新なるの諸法を習得せしめたる專門家は若々斯業の改良に盡力し以て其功を奏せるに歸すべきなり余は茲に貴國蠶業取調に際し余に與へられたる幇助を謝し候敬白

年　月　日

日本帝國　農商務大臣閣下

埃太利國ゲルッ農藝化學試驗場長　ヨハンヽ、ポルレート

◎九州の蠶業は將來益盛なるべし

九州の養蠶は近年創開の事業たるに拘はらず已に大に觀るべきものある中にも大分の如き鹿兒島の如きは長足の進步を爲し今や已に屈指の養蠶國に伍するに至れるは畢竟氣候の溫暖にして風土の善良なるに由るものにして要するに天惠の然らしむる所たり之に反し長野其他東北諸縣の如きは舊來の養蠶國として首要の地位を占め當業者は曾多年の練磨を經て飼育上より云へば大に長ずる所あるも奈何せん寒地の事とて桑葉の發生劣るのみならず時に或は降霜のため桑葉を害せらるゝことあるを免れず且平年にありても氣候の變動甚しくして夜冷殊に烈しきは最も憾むべき點にして縱令遲作を來さゝるまでも九州地方の溫和なる氣候は特に飼育に適して損害に罹ること稀なるのみか桑葉も滋養分に富めるよりして絲質を强靭にし色澤を潤美ならしむるの多幸なるには到底如かざるなり加之長野地方にては繭一升に付き普通九匁內外の製絲額に過ぎざるに九州の繭は大概十匁內外なるを常とす又東北諸縣に於ては冬季沍寒の際には製絲すること能はざるも九州は四季を通じて製絲に從事することを得べければ九州の養蠶にして愈進步するに至らば其利益は到底東北諸縣の及ぶべき所にあらずとて長野の養蠶家中には大分地方に大なる工場を起して製絲に從事せんとする計畫を爲すものもありと云ふ

◎濠洲の養蠶事業

ニウ、サウス、ウエールスの養蠶事業は凡六十年以前より初まりしものなるが其割合には發達の模樣もなく四時絲なす自生の桑葉は盛に繁茂するも之を採りて蠶兒の飼育に充つるものとてはなかりしに近來少しく斯業に着目する人ありて試に之を爲せしが桑葉摘採に毫も困難なきのみならず收繭も亦意外に多かりしとぞ

◎出張と歸京

曩に農商務省の命を奉じ鳥取縣米子町に於て開設したる米外八種共進會審査長として出張したる大日本蠶絲會幹事長岡毅氏及同省の命にて蠶業講話のため福井縣下を巡回したる技藝委員農學士本多岩次郎氏は去月中夫々歸京又蠶業上に就て仝省より仝幹事松永伍作氏は新潟縣下巡回を仝技藝委員練木喜三氏は佐賀熊本二縣下巡回を命ぜられ松永氏は客月練木氏は本月各出發又仝省の命に依り仝技藝委員

農學士渡邊蔀氏は本月一日より栃木縣に於て開設する一府六縣聯合共進會審査長として全幹事高橋信貞氏は全繭生絲審査官として又東京府の委囑にて全技藝委員下田伊左衛門氏は繭生絲審査員と爲り過般発れも出張せり

◎寄贈書

大日本蠶絲會通常會員宮入善吾氏（長野縣小縣郡東鹿田村住）より其自著に係る節蚋病蠶論を寄せられたるが其所說は病原と豫防法とに大段別して氏父子が多年實驗したる成蹟なれば無經驗の書生輩が驚謬的の出版を爲せるものとは固より同日の論にあらず定價は金廿五錢又信州上田の蠶文社にて發行する扶桑の蠶第二號を寄せられたり其編輯は同じく大日本蠶絲會通常會員たる高島諒多氏の手に成りて頗る好雜誌なり

◎大日本蠶絲會員の加入

○通常會員

兵庫　中村泰宗　仝　西村幸太郎　新潟　五十嵐巳之八
群馬　後閑源助　千葉　吉田忠太郎　山梨　今井保一郎
岐阜　梅田耕二郎　山形　川村利三　鳥取　本島彌太郎
岡山　柏原爲美

（右の内中村、五十嵐、今井、川村の四氏は從來入會し居られしも掲載を漏したれば改めて茲に掲げぬ）

◎故下村善太郎氏の追賞

上州の生絲商として世に其名を知られたる故下村善太郎氏が生前の善行に對し過般賞勳局に於て左の如く金杯を追賞せられたり

亡父善太郎夙に志を公益に勵まし力を教育修路救濟等に竭くし率先生絲賣捌の品質を改善して直輸出の路を開き我國產の聲譽を海外市場に發揚し殊に群馬縣廳移轉の際巨額の資財を捐てゝ之を援助し遂に前橋をして倍々繁盛の市たらしめ其他火災予防に勤し幼稚園を維持する等成績著明なりとす仍て爲追賞金杯一箇下賜候事

群馬縣上野國前橋市本町　下村善右衛門

廣告二件

會費整理上差支不尠候間會費未納の諸君は大日本蠶絲會宛にて東京郵便局又は東京市日本橋通郵便爲替取扱所へ向け此際速に爲替御振込相成度郵便切手代用は一割增若又現金御振込なれば通運會社より本會迄の持込賃金三錢を加へ御送付相成度事

會員諸君の内會費御拂込の節爲替劵面の受取人宿所氏名欄内へ本會事務所の舊所在地及幹事の氏名（例へは東京北豐島郡滝の川村字西ノ原大日本蠶絲會何の誰）を御記入又拂渡郵便局を王子と御指定相成候向有之受取方不便不少候間右は豫て廣告候通り現時の所在地及大日本蠶絲會とのみ御記入且郵便局も前項記載の二ヶ所の内へ到達候樣御執計相成度事

大日本蠶絲會

廣告

第二回大集會の演說筆記は前號より逐次掲出して會員諸君の瀏覽に供すべきことを豫告せるにも拘はらず本號の紙上に闕如せる所以のものは論說欄内に所載の事多きに失せんことを恐れてなり次號よりは成るべく繰合して順次掲載すべければ幸に其意を諒せられんことを請ふ

編者拜言

醫化學用
蠶業用
獨逸國製造
顯微鏡
六百倍より千八百倍
「油浸裝置」に至る迄
醫學の進歩と蠶業の隆盛に赴くに從ひ弊店も勉て業務を擴張せざるべからず就中顯微鏡の如きは嚮に獨逸國製造元と特約を結び爾來精良品を直下げ特別廉價に販賣仕候乞ふ御購求あらんことを定價表御入用の向は御報知次第郵送可仕候
東京市日本橋區本町三丁目十八番地
屋號いわしや
總本店
松本市左衛門

◎毎月壹回十日發行　◎第壹號十月十日發兌

蠶業新報

定價壹冊前金郵稅共金五錢五厘半ヲ年分金參拾五錢廣告料廿二字詰壹行六錢
一ヶ年分金五拾五錢
十行以上壹行五錢

◎見本御要望ノ者ハ五厘郵券拾枚ニテ送付ス

第一號目次●發刊ノ趣意●養蠶創業者ニ告ク●祝詞●寄書●蠶種購入者ノ注意●天牛驅除法●養蠶家ハ養鷄ヲ兼業スルニ益アリ●傳記●故高山長五郎君傳●統計●問答●桑苗植込法ノ答●蠶簡高病ノ原因及豫防法ノ答●質問四件●雜報二十件●商況●生糸蠶種桑苗ノ相場●廣告●蠶業新報ノ躰裁ハ横五寸長七寸ノ冊子ニシテ文意了解シ易キカ上ニ傍訓ヲ施シタレバ誰レニモ讀ミ得ベキ尤モ有益ニシテ立派ナル雜誌ナレモ其代價ノ如キハ公益ヲ主トスルガ故ニ無類ノ安價蠶業熱心ノ諸君幸ニ愛讀ノ榮ヲ垂レ賜ハンコヲ希望ス

送金爲替ハ三田局振込切手代用ハ五厘ニテ壹割增
東京芝區高輪南町三十番地丸山舍内
發行所　蠶業新報社